

「地方ローカル線」の維持・存続に関する意見書

西日本旅客鉄道株式会社（以下JR西日本）は、平成30年3月に「三江線」を廃止したのに続き、本年6月には「芸備線」に関し、今後のあり方の検討を開始すると表明した。「木次線」は広島県庄原市の備後落合駅で「芸備線」に接続しており、我々にとっても決して他人事ではなく、看過できるものではない。次々とローカル線が切り捨てられるような状況は、誠に遺憾であると言わざるを得ない。

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響もあって鉄道事業の経営環境が厳しくなり、JR西日本は地方ローカル線に対して厳しい見方を示している。しかし、短期的な経営状況をもってローカル線の見直しを進めることは、到底、受け入れることはできない。地方ローカル線は沿線住民にとって必要不可欠な移動手段であるばかりでなく、他地域から観光客を呼び込む重要な社会的インフラでもある。安易な地方ローカル線の廃止は、地方の過疎化に一層の拍車をかけるばかりか、政府が進めている「地方創生」の動きに逆行するものとする。

広く国民の共有財産である鉄道の存続、とりわけ地方ローカル線の存続に向けた政策が必要と考え、下記の事項について強く要望する。

記

1. 鉄道事業者の届け出により事業廃止ができる現行の鉄道事業法を再改正し、安易に地方ローカル線が廃止されることのないよう国、地方自治体が関与できる制度とすること。
2. 地方ローカル線は沿線地域に経済的な波及効果をもたらすかけがえのない資源であることから、トロッコ列車を含めた観光列車の整備など地域活性化策に特段の支援を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和3年9月28日

島根県雲南市議会